青山学院大学総合研究所研究プロジェクト
「『声』と『身体』の探究――現代欧米詩劇における『ギリシア劇』と『能』の再生」

ジョン・ハーパー教授特別講演

ベンジャミン・ブリテンの《カーリュー・リヴァー》における東と西

～能、西洋中世の典礼劇、グレゴリオ聖歌～

East and West
in Benjamin Britten's *Curlew River*
- Japanese Noh drama,
Western medieval liturgical drama
and plainsong hymns -

ブリテンの教会寓話三部作のひとつ、オペラ《カーリュー・リヴァー》(1964) が、能の『隅田川』に霊感を得た作品であることはよく知られています。当初は登場人物もそのままに日本を舞台とする作品が構想されましたが、ブリテンは設定を中世イギリスの典礼劇へと変えました。この翻案の真意は何か？教会音楽史研究の権威でありながら能にも造詣の深いハーパー教授が、ブリテンの蔵書をてがかりに、能が典礼劇に移し変えられ、グレゴリオ聖歌が取り込まれていく過程をたどり、作品の再評価を試みます。

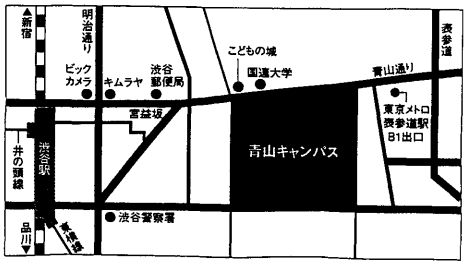
2007年6月1日（金）午後6：30～8：00

青山学院大学青山キャンパス 11号館 1123教室（聴講無料）

■**ジョン・ハーパー教授** Prof. John Harper オクスフォード大学モードリン・カレッジ聖歌隊音楽監督、ウェイルズ大学バンガー校音楽科主任教授を経て、現在、ロイヤル教会音楽学校総裁。専門は、中世・ルネサンス音楽史。『中世キリスト教の典礼と音楽』（邦訳　教文館）ほか、著書・論文多数。

■**通訳　佐々木勉氏**　名古屋音楽大学准教授（音楽学専攻）

お問い合わせ
総合研究所事務室

info@ri.aoyama.ac.jp

青山キャンパス
〒150-8366　東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111（代）
JR山手線、東急線、京王井の頭線 他
「渋谷駅」より徒歩10分
地下鉄「表参道駅」より徒歩5分